市指定文化財 旧四郷村役場 整備工事通信

第参号

令和4年2月24日（2022）木曜日

旧四郷村役場 耐震工事進む

西日野町に所在する四日市市指定有形文化財（建造物）「旧四日市市役所四郷出張所（四郷村役場）」の耐震補強・修理工事が、着工して四ヶ月が経過した。 ＝関連②③④面

▲全体を覆われて工事が進む旧四郷村役場（四郷郷土資料館）

令和三年（二〇二一）六月に、ちょうど築一〇〇年を迎えた旧四郷村役場（四郷郷土資料館）は、同年十月から耐震補強・修理工事が始められた。八年ほど前から老朽化が目立つようになり、四日市市内の貴重な近代建造物として指定文化財となっているこの建物を未来へ継承するため、令和五年（二〇二三）一月まで、約一年四ヶ月をかけて取り組む。

建築時の設計が不詳で、さらに、これまで何度も修理が重ねられてきており、特に市指定後、平成初め頃に行われた修理工事では、一定の外壁の補強、屋根や基礎の修理がなされている。今回の解体工事中に、建築当時の技術など新たに発見されることもあり、施工には特に慎重さが求められている。

工事経過報告～基礎・壁・建具～

基礎

全体の工程の中で、もっとも進んでいる箇所が、一階の基礎工事である。

今回の工事では、建物の躯体をいったん基礎から切り離して揚屋（あげや）を行い、土台を修理する。耐震補強・修理工事として、まずは安定した土台を確保する。

床を支える束

下の写真は、一階の部屋の床を剥がした状態のものである。右側は、床下の根太（ねだ）を支える束（つか）が木の角

▲プラスチック束とコンクリート礎石

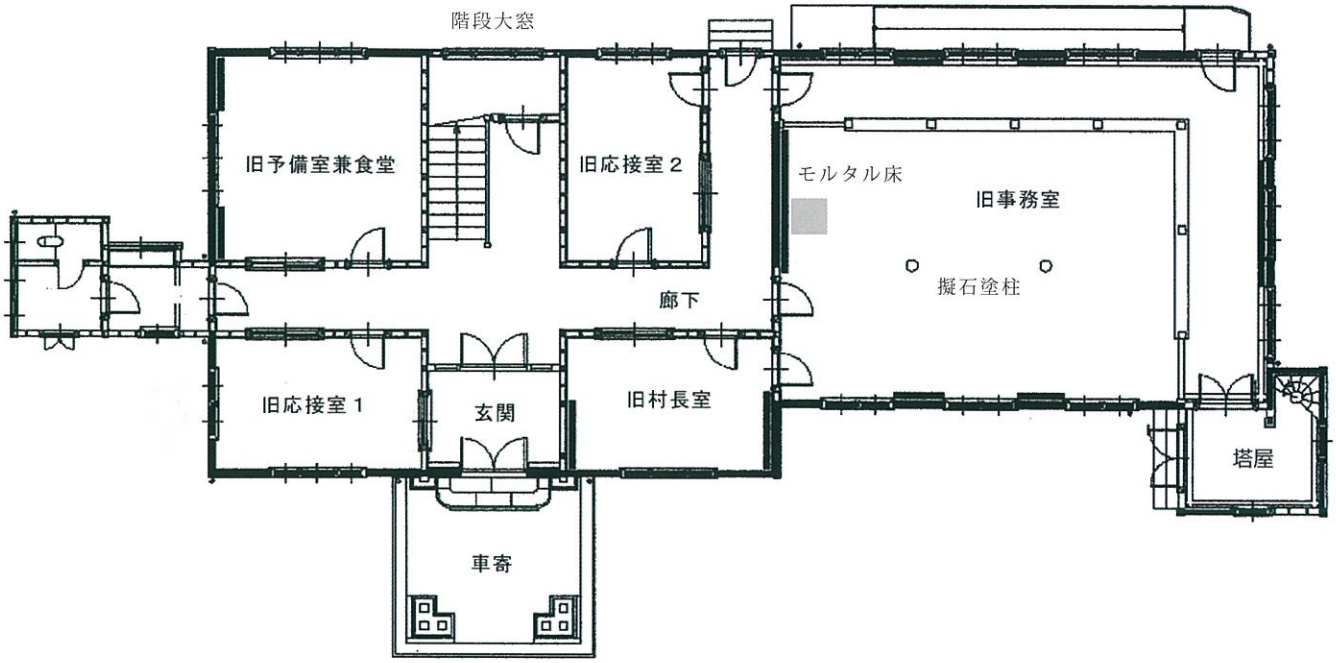
▲木柱の束と丸石礎石

発　行　四日市市教育委員会
社会教育・文化財課
〒510-8601 四日市市諏訪町1番5号
☎ 059-354-8240
syakaibunkazai@city.yokkaichi.mie.jp
HP 四日市の文化財 で検索

きょうの紙面

工事経過報告
■色々な基礎
擬石塗柱の下布？ベタ？ 2・3
■外壁・上下窓 2 4
■トピック
謎の床 3

1階平面図



材もしくは丸材の柱（平成の修理でほぼ交換されている）で、礎石は建築当初の丸い石である。

前ページの左側写真は、束がプラスチックのもので礎石は立方体のコンクリートである。ともに平成の修理で設置されたもので、一階の床下全体に混在する状況であった。

▲床板に貼られた識別のための札

床板やその他再利用する部材には、右のように元の位置が分かるように札が取り付けられ、再び戻すことができるよう保管されている。

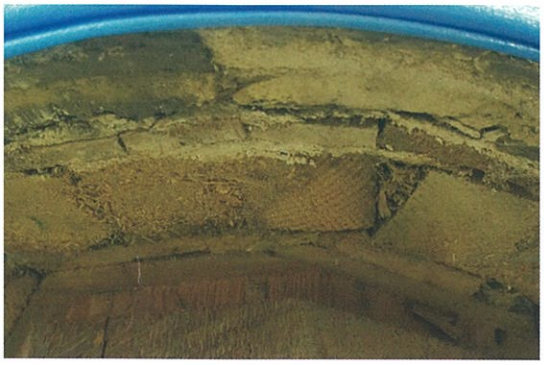
擬石塗柱の基礎

旧事務室の中央には、二本の独立した柱がある。下部表面に、大理石のような墨によるマーブル模様が施されていることが特徴で、擬石塗という。柱頭部にも幾何学的な彫刻があり、装飾的な柱である。

この柱の基礎構造が、今回明らかになった。柱の芯は直径二十センの八角形で、礎石は一辺三五センに整えられた直方体である。周囲は土が盛られ、表面はタタキによって固められていた。その下の地中には高さ六一センのコンクリートの柱が立つ。この柱は桶を型枠としたようである。さらに最下部には、一辺九十センほどの平板状のコンクリートが据えられていた。想定よりもしっかりとした基礎であった。

また、床がなく下から覗くことができたので、柱底部の構造を知ることができた。

八角形の芯の周りに、薄い板、角材、薄い板、壁土、漆喰、というように何層も重ねて厚みをだしている。


▲擬石塗柱の底部の構造

布基礎・独立基礎

外壁の基礎は布基礎で、壁がそのままつながって地中にコンクリートの基礎がある。本建物の場合、最下部が断面逆T字状に内と外に張り出している。

内壁（間仕切壁）の下は独立基礎となっている。構造的な柱の下では、一辺三十センチ、高さ九十センチのコンクリートが支えていた。下の方が大きくなる台形状がほとんどであったが、一部、直方体もあった。最下部は平板状に広がり、二つの基礎がつながっているものもあった。

▲間仕切壁下部の独立基礎

▲外壁下部の布基礎

新しいベタ基礎

耐震補強の重要な工事の一つ、新しいベタ基礎が施工された。

突き固められた床下の地面を砕いて鋤き取り、いったん床面をきれいに整地する。砂や砂利が敷かれ、防水シートを敷き、ベタ基礎の配筋が組まれたところにコンクリートが流し込まれた。外壁の布基礎と結合し、文字通り建物を支える基礎が完成した。

▲ベタ基礎の配筋

▲整地後、砂を整えて敷く

▲コンクリート打設

壁・建具

旧四郷村役場の外壁は、何度かの修理により建築当初から大きく変更されている。対して館内の壁（間仕切壁）は、一階の漆喰壁は塗り直されているが、ほぼ建設当初のものが残っている。

普段、人の出入りが少なかった二階は、塗装にもあまり手を加えられておらず、経年によるひび割れが各所に見られるが、かえって歴史的な雰囲気を醸し出していた。

トピック 謎のモルタル造りの床

着工前に「謎の床」があった。旧事務室に入ってすぐ左側に金庫が置かれていた。おそらく建築当初の頃に近い時代の金庫である。初めからそこにあった可能性が高い。しかし、その横に木板ではないモルタル造りの床が存在していた。通常、重量物を置くために造るものであるが、実際に金庫はその横に置かれたままであった。もう一つ金庫があったと考え、古い時期に造られたものでは、とみていた。

しかし、床板を剥がすとブロック積の土台となっており、挟まっていた新聞には「昭和51年(1976)」の記事（ちなみに、「青木功、尾崎将司、中島常幸…」などそうそうたる名前）が掲載されていた。この年は、四郷出張所としての役割が終わるわずか3年前である。金庫を移動する予定で造ったが、出張所廃止が決まって結局、金庫は動かされなかった、ということであろうか…。

このモルタル造りの床は、基礎工事のためいったん撤去されるが、床は復原し、リニューアルオープン後、40数年ぶりにその役目が達成されることになるだろう。

▲着工前のモルタル床

▲床板を剥がして土台が露出

建具（窓や扉）のうち、外壁に取り付けられた上げ下げして開閉する窓は、木製の枠で密閉性があまりなく、雨水による傷みが進んでいた。なお、館内の窓は引き違い窓である。

扉は、玄関や屋内のものは、全てほとんど損傷はなく、再利用する方針である。

外壁

解体してみると、部分的には古い材が残っていたが、新しい材により交換されていたり、補強されていたりする様子が確認できた。

風雨が強く当たる建物の東面や南面、特に塔屋は東南隅に位置することから、構造材の腐朽が著しかった。平成の修理で設置されたと思われる木材でも腐朽が進んでおり、木造建築の維持の難しさをあらためて感じさせられた。

▲塔屋隅柱の腐朽

上下窓

明治から大正に建設された建物に多く採用された上下窓は、枠の中の重りが紐で窓とつながって絶妙のバランスをとり、窓を自在に上げ下げできる。重りだけを手に持ってみると、案外重い。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

▲外壁解体の状況

▲階段大窓周囲の木摺（きずり）

平成の修理の際に窓一式を新調した職人の話では、重りのバランスの調節にたいへん苦労したという。

▲枠の中、バランスをとる重り

今回は、基礎、壁、建具について、工事の経過を報告した。特に、修理前の旧来の床下の構造や基礎に関しては、工事が進んでおり、実際のそのままの状態をもう見ることはできない。そういった箇所については、記録として後世に伝え、また工事が必要になったときに参考にする。また、いったん取り外した部材でも、再利用が可能であれば元に戻すのが文化財修理の基本であり、工事が全て完了したとき、再びその実物を目にすることができる。

工事の現場見学会を計画しています

第1回　令和4年3月20日（日）

工事現場の見学会を開催予定！

今後も、文化財建造物の見所を公開します

人数は限定されますので、ご了承ください

日時など決まりましたらHPなどでお知らせしますので、お楽しみに！

◎旧四郷村役場（四郷郷土資料館）へは・・

四日市あすなろう鉄道

あすなろう四日市駅より八王子線

終点「西日野駅」下車　徒歩15分

三交バス

近鉄四日市駅南乗り場より

高花平、小山田病院、宮妻口、椿大神社行き

「四郷小学校前」下車　徒歩1分

（四日市駅より15分）

休館中

工事中、資料館は休館します。
駐車場や屋外トイレも使えません。

訂正とお詫び

令和三年九月三〇日付発行の『整備工事通信　第弐号』で、文章に誤りがありましたので、以下の通り訂正しお詫びいたします。

・四ページ「旧東洋紡績富田工場原綿倉庫」の文中、下段六行目「会長」を「副社長」に訂正いたします。

編集後記

今後の整備工事通信は、工事の報告が中心となります。お楽しみに。（か）